

第2回倉敷市総合計画審議会議事録（要旨）

会 議 名 称	第2回 倉敷市総合計画審議会	
開 催 日 時	令和2年12月21日(月) 13:30～15:00	
開 催 場 所	倉敷市役所 本庁舎10階大会議室	
出席者 ※敬称略	審議会 委 員	浅野静子, 板谷利昭, 伊東裕紀, 井上稔裕, 大賀環子, 大島康弘, 岡崎真宏, 小川洋一, 小倉智美, 尾崎聡, 後藤田恵子, 兒山和子, 斎藤武次郎, 佐藤均, 塩津孝明, 竹内京子, 武田晴郎, 竹中麻由美, 武則啓子, 田野美佐, 中島光浩, 難波朋裕, 新垣敦子, 平井俊光, 平松恵美子, 藤原薫子, 松岡智子, 三村聡, 三村英世, 守永一彦, 守屋弘志, 横溝誠子
	市職員	市長, 企画財政局長, 企画財政部長, 企画経営室長, 総合計画策定研究班員, 事務局
関係者	関係者	報道関係者, 委託事業者
傍聴者	傍聴者	1名(定員5名)
欠席者 ※敬称略	審議会 委 員	井上峰一, 永井圭子, 前田勝則
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 各分科会の審議結果について (2) パブリックコメント結果について (3) 倉敷市第七次総合計画の答申(案)について (4) その他 4 閉会	

1. 開会

2. あいさつ

会長 新型コロナウイルスの感染が拡大しているところでございますので、皆さんもいろいろご苦労されていることと思いますが、いよいよ本日を迎えることができました。この審議会は、昨年11月22日に伊東市長から、総合計画についての諮問をいただきまして、5つの分科会に分かれて、活発な議論を進めてきたところでございます。

途中、コロナの影響もあり、書面による審議等もあったとは思いますが、事務局の方からは熟議が尽くされたとお聞きしているところでございます。本日は、それを集約しまして、倉敷市の第七次総合計画という形でまとめ上げる作業を行っていきたく思いますので、皆さま、まだ修正も大丈夫だということでございますので、活発なご意見をよろしくをお願いします。

3. 議事

(1) 各分科会の審議結果について

各分科会長より、これまでの審議内容を報告

(2) パブリックコメント結果について

事務局より、パブリックコメントの結果を報告

(3) 倉敷市第七次総合計画の答申（案）について

会長 各分科会での議論の取りまとめをご報告いただいた。それにパブコメを合わせて、何か意見はあるか。分科会では、いろいろ客観的な数々のご指摘をいただいたが、何かあれば発言していただきたい。

委員 今までは行政サービスをより良くしよう、拡充しようということだったが、人口減少社会に入っている中での総合計画ということで、持続可能なサービスだとか、施設が多過ぎるのではないかといった指摘が議論としてあった。そういったことがまとまった計画になっていると思う。あとはSDGsに基づいて、多様な取り組みがあると思うので、これをどうやって具現化するか、実現に向けて努力していきたい。

会長 それでは、経済界からはどうか。

委員 上位計画としての、この第七次の総合計画であるが、先ほどご指摘があったように、どこを減らすのか、何をやるのか。本当にどれも大切に、優先順位をつけるのが難しい部分ではあるが、倉敷市として何を一番メインにやっていくのかというのが、なかなか見えづらいところがあると感じている。これは後日、施策の重点目標などということになるのだろうが、市長の方針で、住みやすい、暮らしやすい、子育てしやすい、そういうことを言うのか、安全安心という部分を攻めていくのか。どうしても網羅的にならざるを得ないが、その中で何をやりたいのか、少しぼやけたのではないかと印象である。

会長 この総合計画は最上位計画になっているので、あとは各部局がそれぞれのテーマで施策を進めていくことになる。その中で一つ一つ丁寧

		に、今ご指摘いただいたテーマについても議論を進めていくという流れとなる。倉敷みらい創生戦略も入っているので、その辺の兼ね合いもあるかと思うが、今の話について、事務局から何か補足があれば。
事務局		総合計画は最上位計画ということで、どうしても網羅的になる。その中で、今後、倉敷市がどこに力を入れていくかは、やはり市長公約によるものと考えている。一方で、新型コロナウイルス感染症対策と真備の復興が、倉敷市の喫緊の課題となっているので、その他の総合計画に掲げられた施策をどう進めていくかというのは、それを踏まえてのことになると考える。
委員長	長	他に、子育ての話も非常に重要なテーマであるが、いかがか。 今回参加させていただいて、個人的にもとても勉強になった。倉敷市の人口減少を考えると、今の小学生、中学生、高校生といった子どもたちが、将来、住みやすいと思えるまちを作っていきたい。子どもたちの意識改革のために、親としても倉敷市の良さをアピールして、まちづくりに少しでも貢献できればと考える。分科会では、いろんなことを幅広く、それぞれの分野で話されていたので、倉敷市の未来は明るいと思った。
委員長	長	前向きなお話をいただいた。一方で、新型コロナ対策も大変だと思うが、高齢社会の対応についてはいかがか。
委員長		新型コロナということで、こういったときに市民の皆さんに共通の認識、正しいコロナへの対応というのを周知していかなければならない。今回の総合計画とは少し離れるかもしれないが、実際、今の医療や介護対応といったところに弱いところがあるので、皆で支えていける社会になるよう、総合計画の中でも取り組んでいけたらと思う。
委員長	長	概ね議論が尽くされてきたので、この辺りで最後の取りまとめをしたい。今後もう少し修正が出てくるかもしれないが、基本的な議論はここで終了するという事。本日の意見や提案は、答申に入れられること、また今後、計画の推進に当たって市の方で検討することも含めて、若干の手直しもあろうかと思う。先ほど、事務局から、これから入れる数値の話もあったが、最終の調整については、会長と副会長、そして事務局にお任せいただくということで、この倉敷市第七次総合計画の答申案について了承いただけるか。 (拍手、一同了承) それでは本日の審議を踏まえ、この答申案をもって倉敷市第七次総合計画審議会から答申をさせていただきます。
事務局		会長ありがとうございました。本日が最終の審議会となるので、会長から最後に一言ご挨拶をお願いします。
委員長	長	昨年11月から本日まで、長期にわたってご議論いただきありがとうございました。 今回の第七次総合計画の最初に、これまでの第六次総合計画との違いという部分がございますが、地方版の総合戦略である倉敷みらい創生戦略やSDGsを、最上位計画である総合計画の中に盛り込んだ、まさに総合的な計画ということになろうかと思えます。

私が第1回の冒頭でお話ししましたが、これからは右肩上がりの時代ではございません。本日、国の予算が発表になりましたが、概算で106兆円となっています。高齢化が進んでいますので、社会保障費に充てる額は年々増加せざるを得ませんし、人口減少社会への対応や真備の水害のような自然災害も多発しています。そして、今回のコロナ禍に関連する補助を含めて、国においても、倉敷市においても、そこに対する予算の配分が増えて参ります。こういった状況の中で、いかに明るく輝く倉敷市の未来を描いていくのか、その辺りのバランスをどう取っていくのかといったところが、この第七次総合計画の一番肝になることではないかと思慮するところでございます。

SDGsにつきましても、48万の倉敷市民の皆さまに、1人でも多くその趣旨を理解していただくために、産官学関係者、金融機関、医師会、それぞれが共通言語として、ここにいらっしゃる皆さまにリーダーシップをとっていただきたいと思えます。先日もおかやまSDGsアワードが開かれ、倉敷市立精思高校と倉敷青年会議所がアワードを受賞されておられます。倉敷市も国からSDGs未来都市に選ばれているところでございますが、こういった具体的な形で、考え方や実践を一步一步確実に進めていくといったようなことが、最上位計画として位置付けられれば、そのチェックも含め、市民の皆さまが実感できるように伝えていくということが重要だというご指摘も、委員の皆さまからいただいております。

これらも含めまして、最終的に委員全員でまとめ上げましたものを市に答申させていただいて、ここにいらっしゃる委員の皆さまの一人お一人が具体的に、私はこれができるといったようなことも踏まえ、これからの倉敷市の10年、本当に次の世代の人たちが希望も持って倉敷市を愛し、市民としてのプライドを醸成していけるようなまちづくりをしていかなければと思っています。

本当に長期間にわたりまして、皆さまありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。それでは審議会の閉会にあたりまして伊東市長から一言ご挨拶させていただきます。

市長

皆さん、こんにちは。後半部分から参加をさせていただいておりました。大変失礼いたしました。

総合計画審議会の委員の先生方におかれましては、昨年11月22日から今日までの間、5つの分科会に分かれまして、本当に精力的にご審議いただきました。審議状況などは事務局から報告を受けておりましたが、本当に様々なご意見をいただき、また、今の倉敷市民の皆さま方が、お考えになっていらっしゃることの代表的な内容を皆さんから教えていただき、この総合計画の案に反映をしていただいたと思っております。

この全体会は、最初と今回の2回ということでございますが、5つの分科会で、皆さまが深く、市の現状をまず把握していただいて、その上で何が大事だと思っているかということのお話をさせていただきましたことが、この令和3年度から次の10年の、倉敷市の指針になるものでございます。「豊かな自然と紡がれた歴史・文化を 次代へ繋ぎ 人と

人との絆と慈しみの心で「地域を結ぶまち倉敷」。この大きな、めざす将来像に向けて、5つの分科会の中でのお話、そして本日の審議会のご意見をよくよく踏まえまして、今後の10年の計画としていきたいと思っております。

今、三村会長からお話いただきましたが、この1年の間でも、倉敷市はSDGs未来都市に選定され、皆さまご存知のように、新型コロナの状況が今、全国的にも大きな課題となっております。これも一つの大きな災害というふうにも言えるかと思いますが、皆で立ち向かっていく、そのことで頑張っていきたいと思っております。

来年が良い年になりますように。それから、皆さんに審議をしていただきました来年度からの10年が、倉敷市にとりまして良い年になっていきますように頑張りたいと思っております。

皆さまのご審議に心から感謝を申し上げまして、お礼のご挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。

事 務 局

以上で本日の会議を終了させていただきます。

なお、後日、会長・副会長から市長に対して、倉敷市第七次総合計画審議会としての答申をいただく予定となっておりますので、よろしくお願いいたします。皆さま、本当にありがとうございました。

4. 閉会